

妊婦健診では
梅毒の検査も行います



梅毒が増加傾向にあり、

京都市でも4年連続過去最多を更新しています。

梅毒は感染後、症状が軽くなったり消えたりする時期がありますが、
自然に治ることはありません。感染していても気づきにくいことが特徴です。

赤ちゃんの先天梅毒を防ぐためにも、

区役所・支所子どもはぐくみ室または京北出張所の窓口で
妊婦健康診査（以下「妊婦健診」）の受診券を受け取ったら、
定期的に医療機関で妊婦健診を受けましょう！

※妊婦健診のなかで実施する感染症検査の1つに、梅毒の検査が含まれます。

妊婦健診
を受けましょう！

先天梅毒を防ぐために

梅毒が増えていきます!!



『先天梅毒』とは？

梅毒にかかった母親（妊婦）からお腹のなかの赤ちゃんに梅毒トレポネーマが感染することで起こります。出生時は無症状のこともあります。生後数か月以内に発疹や骨の異常がでることがあります。さらに、数年後に目の炎症や難聴などの症状がでることがあります。

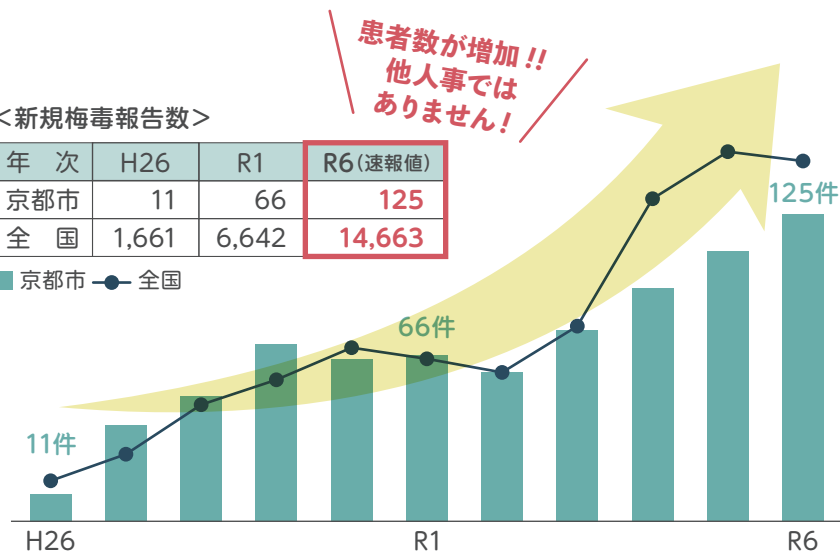
妊娠の早い段階で感染が分かれば、早期の治療により赤ちゃんへの感染リスクを下げることができます。



<新規梅毒報告数>

年次	H26	R1	R6(速報値)
京都市	11	66	125
全国	1,661	6,642	14,663

■京都市 ●全国



先天梅毒報告数（国集計）

令和4年 20件 ▶ 令和5年 37件

梅毒ってどんな病気？

梅毒は、性行為（キスやオーラルセックス含む）などで、
体液や血液が粘膜などに接触することで感染します。

代表的な症状

※症状は人によってさまざまです

感染後 約3週間



性器や口、肛門など
感染したところに赤いしこりや
潰瘍、リンパ節の腫れ

!!
症状消える

感染後 数か月



バラ疹：手のひら、
足のうら、体全体に
発しん（赤いぽつぽつ）

!!
症状消える

感染後 数年



心臓、血管、
脳などの臓器障がい、
皮膚や筋肉、骨などの腫瘍

ここに
注意！

- 感染後に無症状の時期があり、治療しないとその間も病気は進行します。
- 症状が消えている間も、性行為により相手に感染させるおそれがあります。
- 妊娠中に感染していると死産や早産、子どもの障害につながるおそれがあります。
- 免疫はできないため、何度も感染します。

どうしたらいい？

感染予防

性行為時、コンドームを正しく使用してください。
不特定多数との性的接触は避けてください。

早期発見

症状があるときは、産婦人科、婦人科、泌尿器科などを
受診してください。症状は無いけれども心配なときは、
京都市の無料・匿名検査を受検してください。

早期治療

抗菌薬が有効で、適切に治療することで完治できるため、
早期の治療が大切です。



その他にも性行為で
かかる **感染症**

- HIV／エイズ
- 性器クラミジア
- 淋菌感染症 など

性感染症に関する
詳しい情報はこちら
(京都市情報館) ▶▶▶

